

リーディングDXスクール事業【実践事例】

川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校

【取組内容】「個別最適な学び」と「協働的な学び」による主体的な学び充実

中学2年・数学 “一次関数の求め方”

活用ツール

Google Classroom・スプレッドシート

どうやって？誰と？どのように？は誰が決めるのか？



1 事前に学習動画を配信

事前に撮影した解説動画を配信。課題に行き詰った時、いつでも振り返ることができます。個々の理解度や進捗に合わせた学びにつながっています。



2 生徒同士で学びを深める

クラウド環境を活用することで、自由に生徒同士が互いの回答や取組を参照したり、友達と集まって考えを話し合ったりできる授業づくりに取り組んでいます。



3 進捗共有と振り返り

Classroomで共有したスプレッドシートに進捗や振り返りを入力します。教員は、生徒の学習状況を確認しながら、個別にあった指導を行い、評価指標としても活用しています。

取り組みのねらい

教員が生徒一方向的に授業するのではなく、生徒に学びを委ね、教員はファシリテーターの役割を担い、生徒の主体性を大切にしています。生徒は、問題や課題にどうやって取り組もうかを考え、誰と、何を使って、自分に合った学習方法や教材を選択して、学習に取り組んでいます。教員は、クラウド上で生徒の進捗を確認しながら、単元やその時間ごとに取り組みの過程や成果を見取り、評価します。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校

【取組内容】 情報活用能力による主体的な学びの充実

中学1年・総合 “地域を紹介しよう”

活用ツール

Google スライド・オンラインホワイトボード

デジタル？紙？何を使ってまとめよう？



1 自分の考えや想いを表現しよう！

地域の魅力を個々に1枚のシートを作成します。フィールドワークで見たり、感じたことを一人一台端末を活用して、考えや想いをまとめて、表現します。



2 あらゆるツールを使って調べよう！

フィールドワークだけでなく、町のウェブサイトや教科書など、地域の特徴や歴史に関する情報は溢れています。紙かデジタル、何を使って調べるかは、自分たちで決めています。



3 クラスメイトから意見を聞こう！

自分が伝えたいことが伝わるのか、改善できるところはないか、クラスメイトの意見を聞いて、ブラッシュアップします。ロッカーの上も、立派な意見交流のスペースになっています。

取り組みのねらい

フィールドワークで実際に歩いてみて感じたことや調べたことをどうすれば相手に伝わるかを考え、まとめることで表現力を高めます。一人一台端末を活用して、あらゆるアプリケーションやツールの中から、どれが適しているかを考え、情報を整理してまとめる力は、自主的かつ自発的な学習に取り組む力を育みます。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校

【取組内容】 クラウド環境を活用した校務の効率化

校務 “遅刻欠席連絡・掲示板”

活用ツール

Google フォーム・スプレッドシート・サイト

身近な改善による校務DXが第一歩！

項目	遅刻の理由	登校予定時刻	備考
2/5	欠席		病状等
2/5	欠席		病状等
2/5	欠席		家事都合
2/5	欠席		病状等
2/5	欠席		その他
2/5	欠席		病状等
2/5	欠席		病状等
2/5	欠席		その他
2/5	欠席		家事都合
2/5	遅刻	10:50:00	その他
2/5	遅刻		その他
2/5	欠席		

名前	タイトル	内容
2/5 8:01:03	2/4の研究協議資料について	4日の2年人権学習授業公開後の研究協議資料について
2/5 15:45:00	忘れ物検索	1-1. が体育館に原色で縦書きの名前を記載しているということです。各教科、1セット（採択されたもの）を取りに行きます。・2セット以上希望される場合、・26（木）AMに、引き取りに行きます。
2/5 11:27:30	R7年度からの教科書（見本）ひきとり	・R7年度からの教科書（見本）引き取り、各教科、1セット（採択されたもの）を取りに行きます。・2セット以上希望される場合、・26（木）AMに、引き取りに行きます。
2/5 11:27:30	川西町立式下中学校より	・川西町立式下中学校より、縦書きの名前を記載しているというものです。共有ドライブ（式下中学校）1.3.3.3.4.7名です。よろしくおねがいします。
2/5 11:27:30	2月の図書日よりについて	教室掲示をお願いいたします。

1 Googleフォームで欠席遅刻連絡

保護者の遅刻欠席連絡にGoogleフォームを活用しています。保護者は時間や場所を問わず、連絡ができ、朝、電話が繋がらないという声が無くなりました。

2 いつでも最新の情報を確認

クラウド環境を活用して、保護者からの欠席連絡を共有。教員は職員室に戻らずに最新の情報を確認できます。伝達誤りや伝え忘れが無くなり、事務職員の負担軽減に！

3 教職員専用のポータルサイトを開設

教職員だけがアクセスできるポータルサイトをGoogleサイトで作成。遅刻欠席連絡や掲示板、教育ソフトやマニュアルへのリンクをまとめて、どの場面でもまずはここから始めます。

取り組みのねらい

教育DXの推進には、まず教職員がICTを使ってみて、良さを感じ、自分の業務環境を改善することが第一歩です。校務DXは、教職員にとって日常に直接関わることから、活発な意見がたくさん出てきます。学校全体で校務DXの取り組みが進むと、今度は授業へと…。教員自身が体験したことを、授業での活用につながっていきます。